

## 再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：鈴木克宗

<b>事業名</b> 一般国道52号清水IC関連	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 中部地方整備局
<b>起終点</b> 静岡県静岡市清水区穴原		<b>延長</b> 0.2 km
<b>事業概要</b> 一般国道52号清水IC関連は、静岡県静岡市清水区穴原において、国道52号から第二東名高速道路清水IC（仮称）にアクセスする約0.2 kmの道路です。		
H 8年度事業化	H 3年度都市計画決定	H 13年度用地着手
H 16年度工事着手		
<b>全体事業費</b> 約25億円	<b>事業進捗率</b> 40%	<b>供用済延長</b> 0 km
<b>計画交通量</b> 5,500台/日		
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 4.0 (残事業) 8.3	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 44/91億円 (事業費：40/87億円) (維持管理費：4/4億円)
		<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 367/367億円 (走行時間短縮便益：328/328億円) (走行費用減少便益：33/33億円) (交通事故減少便益：6/6億円)
<b>基準年</b> 平成17年		
<b>事業の効果等</b> ・災害への備え(緊急輸送路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代街路線を形成する) 他5項目に該当		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ・高速道路へのアクセスが不足 ・緊急時に脆弱な道路網 ・異常気象時に孤立する集落		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 用地買収率73%、平成16年度から道路改良工事に着手		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 第二東名高速道路の開通は、平成20年代前半と見込まれており、清水IC関連は、同時の開通を目指します。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 建設発生土の有効利用によりコスト縮減を図っています。		
<b>対応方針</b> 事業継続		
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性は、重要性は変わらないと考える。		
<b>事業概要図</b>		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。